

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※	甲	第	号
------	---	---	---	---


氏 名 日 尾 野 誠


論 文 題 目


Early and Late Outcomes of Thoracic Aortic
Surgery in Hemodialysis Patients

(透析患者における胸部大動脈手術の早期および遠隔期成績)

論文審査担当者

主 査 委員 名古屋大学教授
丸山 彰一 

委員 名古屋大学教授
古森 公浩 
名古屋大学教授

委員 名古屋大学教授
室原 豊明 
名古屋大学教授

指導教授 石塚 章考 

論文審査の結果の要旨

名古屋大学付属病院における2002年より2014年までの直達下胸部大動脈手術を行った連続700例の患者を対象に後方視的研究を行うことで、これまで不明確であった透析患者における胸部大動脈手術の早期および遠隔期成績を明らかとした。透析患者は男性、糖尿病、肝障害、緊急手術が多く、高脂血症が少なかった。術前7因子でPropensity Score Matching後、透析患者は短期成績として有意に呼吸器合併症が多く、透析患者の脆弱性、免疫機能低下の関与が示唆された。長期成績は生存率が有意に非透析症例と比べ不良であったが、これまでに報告されている透析患者の予後と概ね一致したものであった。透析患者に対する胸部大動脈手術例は糖尿病や緊急例が多く、また、その早期、遠隔期成績は不良ではあるが、透析患者に対して胸部大動脈手術を過度に躊躇うことは避けるべきであると考えられた。

本研究に対し、以下の点を議論した。

1. 本研究は単一施設での後方視研究であり、また対象となる透析患者数は比較的小規模である。本研究結果は多施設研究により検証されることが今後の検討課題である。





2. 透析患者に緊急手術が多かった事は、手術を行わなかった場合の急性期死亡率は高く、救命が目的の手術治療が多かった事が示唆される。透析患者の合併症率は高いが、上記事由を考慮し、過度に透析患者の手術を躊躇うことは避けるべきと考える。

3. 手術侵襲を低侵襲に終える事、人工呼吸管理中および離脱後の術後肺炎の早期発見、治療を厳格に行う事やRefillingに合わせた除水管理を適切に行っていく事が、周術期合併症を防ぐ上で重要である。透析患者における胸部大動脈手術成績を明らかにすることで、大動脈疾患の早期治療につながる啓蒙が促されることを期待する。

以上の理由により、本研究は博士（医学）の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

別紙2

試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※甲第	号	氏名	日尾野 誠
試験担当者	主査 丸山 彰一  森 公浩  室原 豊明  指導教授 碓氷 章孝 			

(試験の結果の要旨)

主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。

1. 透析患者における胸部大動脈手術研究の今後の課題について
2. 透析患者の胸部大動脈手術成績の適応についてどのように考えるか
3. 透析患者の胸部大動脈手術の成績改善に向けての対策について

以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、心臓外科学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。